

総合治山（保安林改良）の実行結果について

庄川営林署 内藤治夫・柴田修身
軒端信司

1. はじめに

当署管内の大白川流域は、保安施設の充実に加えて、保健休養の場として、環境の保全整備など多面性を含んだ森林地帯であることから、昭和60年度に流域保全総合治山事業が計画された。そして事業計画の一部である御母衣ダム建設用地として利用された跡地一帯を保安林改良事業として、3ヶ年計画で整備を進めてきたところ、ほぼ完成したので、その事業内容を発表する。

2. 施工地の概要（図-1、別紙位置図参照）

施工地は平瀬集落から、大白川沿いに県道白山公園線を14Km進んだ地点である。

施工場所	大白川国有林353林班
施工面積	2.61ha
標高	1,200～1,230m
地形	火山性台地
地質	白山火山噴出物
土壌	BD型
気象	裏日本気候
降水量	2,200～3,200mm
積雪	2.5～4.5m（豪雪地帯）
保安林種	土砂流出防備保安林と保健保安林の兼種保安林
公園名等	白山国立公園・白山白川自然休養林内
観光施設	白水の滝、温泉施設、白水湖
林相	林縁部は樹齢200年を超えるブナ、ナラ、ヒノキなど高木が、わずかの巾で残り、その内部はカエデ、ハンノキなど低木がほとんどで、雪圧を受け貧弱である。

3. 現況特性と整備方針（表-1、別紙参照）

施工地の林分内容を検討し、現況特性別に6タイプに区分し、整備方針を決定した。

图-1 位置图

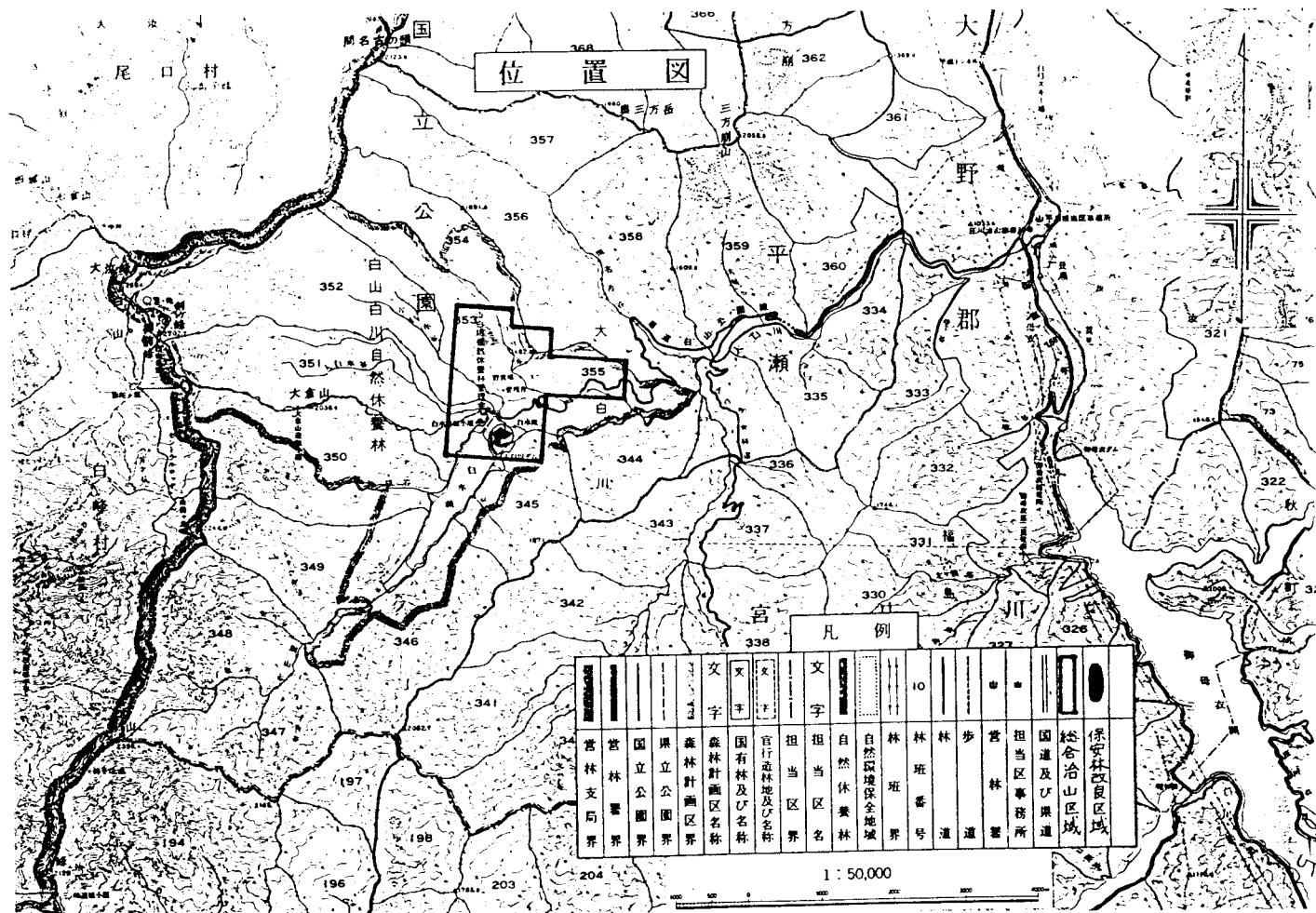


表-1 整備対象林分の現況と整備方針

区分	現況特性	整備方針
Aタイプ	ダケカンバ(15m)を主林木とする広葉樹2次林で、構成樹種は陽樹が多い。 高木層から林床植生まで多層構造が形成されているが、低木層以下がやや過密な状態である。	① 亜高木～低木層の根曲がり、折損木などを中心に、およそ20%の立木整理と、全域の地拵えを行って高木～低木まで、バランスのとれた林分構造へ導く。 ② 小苗を補植する。
Bタイプ	高木層がほとんど欠除している広葉樹2次林。 亜高木(平均樹高3m) 低木層(平均樹高1.5m)の2層構造で、非常に密な状態である。	① Aタイプと同様に立木整理 50%、全域の地拵えを行う ② 高木層が欠除しているため、大苗(h=4.0m程度)を500本/haの密度で植栽し、被層林型へ導く。
Cタイプ	高木層は貧弱な広葉樹2次林。 亜高木層以下はBタイプと同様だが、雪圧による根曲がりや折損などの被害木が多い。	① 立木整理 30% 全域の地拵えを行う。 ② 大苗(h=4.0m程度)を300本/haの密度で植栽する。
Dタイプ	ブナ ミズナラを主体とする極盛相に近い広葉樹林。 亜高木、低木層はあまり発達していない。	① 立木整理 20% 全域の地拵えを行う。 ② 小苗を補植する。
Eタイプ	高木層はダケカンバ ドロノキが点在する程度の広葉樹2次林。 全体的に立木密度が小さく、疎林となっている。	① 地拵えは実施するが、立木整理は行わない。 ② 大苗 小苗を同時植栽して、すみやかに林分形成を図る。植栽対象面積は、およそ70%を目安とする。
Fタイプ	ブナを主体とする極盛相に近い広葉樹林。 林縁部で亜高木、低木層はあまり発達していない。	① 立木整理 20% 全域の地拵えを行う。 ② 植栽は行わない。

写真-1



Bタイプ林相-施工前

写真-2



Bタイプ林相-施工後